

立教186年
活動方針

「教祖のひながたを目標に
全教会心定めの達成」

◇教祖誕生祭4月18日執行◇

225回目の御誕生日に、国の内外から多くの
ようぼく信者が集い、お祝いさせて頂いた。

◇第105回婦人会総会4月19日開催◇

全国各地から19,000人の会員が参集した。

◇全教一斉ひのきしんデー 4月29日終了◇

「成人の旬 一手一つにひのきしん」
をテーマに、全国各地で開催された。



発行所
天理教網走大教会
布教部出版広報掛
〒093-0073
網走市北3条西6丁目
TEL 0152-43-2227
FAX 0152-44-2227



大教会のHPがご覧になれます！
月報には掲載されない写真もいっぱいです！
ぜひ一度ご覧下さい♪

大教会四月月次祭

大教会4月の月次祭は、12
日午前9時30分から大教会長
祭主のもと、執行された。

大教会長は祭文で、親神様
の御守護に御礼申し上げた後、
「先月は、初席者三名、よう
ぼく二名、教人一名の人の御
守護を賜りましたこと、心よ
り御礼申し上げます。私共教

神殿講話

細木善信 役員



神殿講話抜粋

♪(歌)

『しあわせってどんなだろ
う しあわせてどこにある
きつとみつかるシアワセは
きみのまわりのシアワセ
「あさがきた」シアワセ
「ケンカしてなかなおもし
た」シアワセ
「トモダチでできた」シアワセ
「そらがはれた」シアワセ

会長をはじめ、ようぼく一同
は、成ってくる様々な姿の中
に親神様の思いを悟り、教祖
のひながたを常に忘れること
なく、心定めの達成に向けこ
の真実の道を歩む決心でござ
います。」と奏上した。
その後座りつとめ・十二下り
のをどりが勤められ、参拝
者は共に勇んでみかぐらうた
を唱和した。

シアワセっていつてると
ほんとにシアワセになるんだ
ね
すてきなことばおぼえたよ
それはね シアワセ
この「シアワセ」という歌
少年会本部発行の子育てマガ
ジン『さんさい』という雑誌
のエッセイに載っていました。
ある教会の奥さんが、上級
教会の月次祭に参拝するため、
車で子供と共に向かう道中、
このお子さんが、「おかあさ
ん、幸せって言ってるよ、本
当に幸せになるんだよね。本
当？」と聞いたそうです。
ビックリしたことを言うの

で、どういふことかと聞いた
ら、NHKの『お母さんといっ
しょ』という番組で、この「シ
アワセ」という歌が流れてい
た、ということでした。お母
さんは、この歌をテレビで改
めて聞いて、日々を反省した
というエッセイでした。
「しあわせ」。幸せになりた
くない人は、いないと思いま
す。俺は不幸が似合っている
んだ、という人は、人生なか
なかうまくいかないことの言
い訳なんでしょうか。毎日、
幸せを求めて生きているとい
うのが、本当だと思ふのです。
「幸せ」という言葉を辞書
で調べますと、満ち足りてい
て不満がなく、望ましい状態。
恵まれた状態にあつて不平を
感じない。満足できて楽しい。
という意味のようです。
はたと思ひますとお道の教
語に似たような言葉があるよ
うに感じませんか？そう、「た
んのう」という言葉。意味は、
「足りている」ということ。
満足の思いを心に納めること、
という心の状態を言います。
天理教教典に『たんのうは、
単なるあきらめでもなければ、
又、辛抱でもない、日々いかな
ることが起ころうとも、その

中に親心を悟って、益々心をひきつめつつ喜び勇むことである。〔75ページ〕とあります。私は、「たんのう」の行きつくと気が付いたのです。しかし、この「たんのう」の心に至るには、難しい場面をいくつも越えなければなりませんよ。この「たんのう」の心の治め方を、教祖から「ひながた」の道を通してお教え頂きました。

論達第四号に載っています、「水を飲めば水の味がする」という一件は「たんのう」の治め方をお教え頂いています。

今は、苦勞の道中で大変な生活であるかもしれないが、思いを変えて考えてみると、そんな中でも、健康のご守護を頂いているからこそ、目も見えるし、耳も聞こえるし、鼻で匂いを嗅ぎ、口で話して、食べることもできる。手足が動き、内臓の働きを頂いている。世の中には、お金がたくさんあって何不自由ない生活を送れている人も、病気で明日の命も分からないと言っていて、嘆いている人もいます。親神様から、結構にお与え頂いていると、人間にとって一番大切

なもの何か、をお教え頂いているのです。

また、次に論達に載っています「節から芽が出る」という言葉。事情・身上、人生の節目というものは、誰しもやってきますが、その節を後ろ向きな気持ちで越えるのか、神様の親心だと思つて通るのかで、まったく違った道が現れてくると思うのであります。「成つてくるのが天理」であると、受け入れる「たんのう」の心の持ち方が大切ですよ。

8年ほど前ですが、ご本部から寺田美治先生が修理人として網界にご巡教下された時に、感動的なお話を聞かせて頂きました。

先生が学生の頃、お父様が肺ガンの身上を頂いたそうです。ガンはかなり進行していて、手に負えないなら手術しても何もできず、ふたをしめると何もあるとのこと。しかし、手術が混んでいて、手術の順番を待っている状態でした。先生は、毎日、お父様におさづけを取り次ぎに病院に通っていたそうです。そうしたある日、先生は、お父様の病室を訪ねると、お父様が、

涙を流して泣いていたそうです。人前で泣くようなお父様ではないので、どうしたのか

と思ひ、尋ねたそうです。その世の中に60億の人間がいるのに、親神様・教祖は、たったひとりの私をお忘れにならないで、覚えていて下さり、身上をお与え下され、お手紙を頂戴した。有難くて、嬉しくて、感激して涙が出て、涙が出て、ならないのだ」と、言われたそうです。今とは違い、その当時、ガンは、死の宣告を受けたと同じぐらいの身上でありました。先生のお父様は、それから、毎日病室を回りおたすけを続けられた。順番が来て、手術を受けられました。何が、何と、不思議なこと

にガンはあとかたもなくなくなっていたのです。それから、30年長生きされたとのこと。ご守護頂くということ、身上を頂いた神様の思いを理解すること。それには、その身上を頂いて、喜べることはないかと感じたのです。

この話は、私にとって宝にしている話で、何か分かりますが、力があるんです。身上の方に、いつもこの話をさ

せて頂いています。

私の母・瀬川多津恵。前の年祭、130年祭のその月、1月10日に出直しました。享年92歳。母は、晩年、遺伝による網膜色素変性症という身上で、盲目、目が見えなくなりました。信仰一筋に命がけて通つてくれ、私たち子供である兄弟に信仰を繋いでくれました。私の周りに、この身上の方が2人います。それも、共に同じ年、同級生、仲の良い友達なんです。どうして私の周りに十数年にわたって友達の縁が切れず、繋がっているの

だろう、と思っていました。その謎が最近解きました。あら、遺伝の身上なんだけど、瀬川家に繋がる兄弟、子供たち、孫たちに、今のところ、誰も、この症状を訴える人はいない。どうということだろう。遺伝はいんねん、と聞かせて頂きます。いんねん切

ることは、人をたすけること、おたすけ。きつと、このいんねんを両親たちがそして、信仰のお陰で切つて下さって、今日、成程という日をお見せ頂いているんだ、ということに気がきました。いんねん寄せて守護する。神様は、それ

を教えるためにこの2人を繋いでくれていると感じたんです。

この年祭活動は、お道の発展のため、教会の発展のためだけのよう感じてもらえる方もあるかと思いますが、それは、見方が違っていると思います。私たち一人ひとり、自分の運命を切り替えるチャンスを下さっているのです。

論達第四号に「ようばく一人ひとりが教祖の道具衆としての自覚を高め、仕切つて成人の歩みを進めることが、教祖年祭を勤める意義である」また、「教祖年祭への三年千日は、ひながたを目標(めど)う)に教えを實踐し、たすけ一条の歩みを活発に推し進めるときである。」とお示し頂いております。

お道の信仰は、教祖のひながたを目標(めど)に日々通らせて頂くとお教え頂きます。ちょうど、10年前の秋季大祭の神殿講話の中で、真柱様は「私たちがひながたの道を通るとは、その形をそっくりまねるのではなく、常に教祖のたすけ一条のひながたを念頭に、今このような状況で、教祖ならばどのような思召に

教祖誕生祭・婦人会第105回総会

なるだろうか、教祖ならどのように行動されたらどうかとひながたに照らして思案し、それに少しでも近づけるよう行動することだと思っております。」と仰いました。

皆さん、日々一生懸命お通り頂いていることとは思いますが、この三年千日、何か行動を一つでも増やしてもらえないでしょうか。教祖は私に何を望みなのだろうかとお考え頂きたいのです。こちらから力を入れてさせて頂けば、神様は倍の力でお返し下さいます。その積み重ねが、運命を切り替えて頂き、幸せな家庭の姿をお見せ頂けるのです。

「教祖のひながたを目標に、全教会心定め達成」各教会で定められた心定めのもとに、大教会のスローガンとして、心ひとつにして進ませて頂くとうと、三年千日活動はスタートしました。年祭活動は、周りの人がやるのではないのです。人のためにあるのではなく、一人ひとりの信仰の成人を求められているのであります。何とか、心定め達成の上に一役を担って頂き、おつとめ頂きますようお願い申し上げます。

4月18日、中山大亮様祭主のもと、教祖誕生祭が執行された。ポカポカと暖かい春の陽気に迎えられ、教祖25回目のご誕生日をお祝いしようとして、網走大教会に繋がるよふぼく信者もおおぼに参集した。

18日の夕方には、詰所2階大広間にて、本部布教部庶務課に勤務されている、岡田康秀先生をお迎えし、講話を聞かせて頂き、その後、お話の内容について練り合いをさせて頂いた。内容は、「教祖のぬくもりを求めて」ということをテーマに、ご家族の身上を通しておさづけの尊さを感じさせて頂いたことなどをお話下された。

翌19日には、あいにくの雨模様の中、婦人会第105回総会が開催された。今年は人数制限もなく、全国から1万9千人の会員が参集した。中山はるえ婦人会長様は挨拶の中で、尊いをやの教えを、自信と誇りをもって伝え広めることができるよう、自ら教



えを求め、正しく学んで素直に実行し、心の成人を目指して努力を重ねるよう呼びかけられた。引き続き真柱様のメッセージを、宮森内統領が代読され、最後は全員で婦人会会歌を唱和して閉会した。

全教一斉ひのきしんデー

4月29日、「成人の旬」の一つにひのきしん」をテーマに、全国各地で開催された。

大教会のある網走支部網走組は、今年も「道の駅流氷街道網走」を会場に行われ、35名が参加、また、釧根支部釧路組は「公設地方卸売市場」を会場で開催し、70名が参加した。札幌中南支部では、51名が参加し、教区周辺のゴミ拾いと、庁舎の清掃ひのきしんに分かれて汗を流し、それぞれの地域に根付いた活動となった。



修養科事前研修会よろこびセミナーを受講して

今年からスタートした修養科事前研修会。修養科を志願される方だけではなく、もっと多くの方に気軽に受講して頂けるように、よろこびセミナーと名称を付け加えました。ぜひ一度受講してみして下さい。

誠網 秋山志織 (修養科今年7月志願予定) なんとなく、天理教の始まりやかしもの・かりもの、八つのほこりを知っていました。改めて、研修会で聞かせて頂き、生きていること自体が、ご守護なんだなと思ったり、日々生きていると知らぬ間にほこりが溜まるので、おつとめ、ひのきしんで心を掃除させて頂くとうと気が付くことができ、感謝です。

天理教を知らない人でも、分かりやすい言葉づかいで具体的に何をしたらよいのかなど、とても新鮮で、充実した時間でした。教えて頂いたことを実行していけるよう日々過ごさせてもらいたいと思います。

4月人のご守護

○初席者 (6名)

直轄 山口 麗子

旭道 橋本 典哉

徳元 山本 泰司

徳道 山本 恵生

徳元 山本 喜和子

誠網 渡部 順子

誠網 安田 千晴

○修養科志願者 (1名)

満金 岩原 榮

○別席傍聴願 (5名)

○おまもり下附願 (3名)

菅原明華様 (小学校入学)

菅原理真様 (中学校入学)

遠田眞明様 (祖父50年祭)

札幌光星高等学校

大教会4月の動き

1日 役員会会議。お話し会。直轄世話人会

2日 縦の伝道日

4日 網走支部役員会会場

9日 網走支部例会会場。縦の伝道日

10日 役員会会議

11日 教祖140年祭網走おたすけ委員会会議。婦人会決起の集い。育成部会

12日 月次祭。役員会会議。連絡会

15日 修養科事前研修会よろこびセミナー(17日まで)

17日 五季御礼。会長、おぢばがえり

18日 教組誕生祭遙拝

20日 会長、札幌信者まわり(23日まで)

23日 会長、おぢばがえり。詰所23会。縦の伝道日

24日 会長、本部神殿奉仕つとめる

25日 会長、本部災救隊会議出席

26日 本部月次祭遙拝。会長、教区主事会出席。結城和広役員、本部神殿奉仕つとめる

27日 会長、かなめ会総会出席。細木善信役員、



立教186年人のご守護 心定め			
初席者	ようぼく	修養科修了者	教 人
69名	44名	34名	21名
成 果 (4月末現在)			
12名	3名	0名	1名

30日 みそか会

29日 全教一斉ひのきしんデー

本部神殿奉仕つとめる

教会名	初席	中席	ようぼく	修卒	教人	婦参者		教会名	初席	中席	ようぼく	修卒	教人	婦参者	
						当月	累計							当月	累計
直轄	3					12	32	誠央	1					2	9
美幌							1	常道							1
女満別		2				5	14	徳道	1	5				11	23
斜里町							0	満金						1	1
釧厚							0	網安						1	1
武士							1	オホーツク							0
常呂			1			4	16	網徳						1	1
旭網	1					3	5	栗沢						4	4
御料						1	1	徳元	1	1				7	8
東藻							0	網盛						1	2
陽光						2	7	網新	1					8	13
呼人							5	網葉						1	1
誠陽		1				2	5	網陽							1
網栄						1	1	誠網	2	3			1	11	22
實東						9	15	網次	1	2				3	9
東網			2			1	4	網昇	1					1	9
宗稚						4	8	勇走						2	7
初席	6	12	8	14				修卒						2	13
中席								教人						1	100
ようぼく								婦参者						100	240
修卒						3		教人						1	100

4月 月次祭 4/12(水)					
(参拝者数 約70人)					
神殿講話	賛 者	指図方	扨者	祭主	祭 員
細木善信	遠藤三浩二	安澤春雄	菅原光宏	三幣敦志	丸山一徳
胡三味琴弓線	小すり	太拍子	ちやん	笛ぼん	地
栗山崎の聖鷲り子代	栗瀬川	細木	澤田	大藤山	三幣一和志
三斎大澤山田美知子	遠小針	清木	小松	在谷	田青中山
眞壁川藤子	藤増三井	三岩	永井	新原	遠安眞
祭 員	大教会長	新正人	大正人	三幣一和志	丸山一徳
前 半	三幣一和志	結城和広	大正人	大正人	大正人
後 半	三幣一和志	結城和広	大正人	大正人	大正人